

原小だより



横浜市立原小学校

平成28年 4月 5日

4月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/>



新しいスタート！・・・すてきな出会いを
「みんなは一人のために、一人はみんなのために」

校長 桃井 陽子

春爛漫、桜の春を迎えています。原小学校を取り巻くように今、桜が満開の時を迎えています。一つ学年が上がり、新しい気持ちで登校する子どもたちを待ち構え、入学や進級をお祝いしてくれているようです。また正門を入った円形花壇や玄関前の花壇に色とりどりのパンジーやピオラ、ノースポール、水仙などの花々が咲き誇り子どもたちを迎えます。

平成28年度がスタートしました。お子様のご入学・ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今年度は179名の1年生を迎え、全校児童1000名でスタートします。

新しい出会いに心躍る4月。それぞれ一学年進級し、新しい学年の生活を楽しみにしている様子が体全体にあふれ、顔が輝きます。3月18日に行われた卒業証書授与式に在校生代表として参加した5年生の田畑理絵さんの感想を紹介します。

六年生が卒業してしまうということで、私たちが原小学校のリーダーになるという自覚を、卒業式をやり、あらためて感じました。六年生の歌や話を聞いているすがたなども、とてもすばらしく、来年私たちがこのようなすがたでのぞみたいという目標も生まれました。そして六年生になって私は、みんなの目標やあこがれになれるようなりっぱな六年生になりたいです。

理絵さんの言葉から6年生になる自分のなりたい姿や心構えが見えてきて頼もしくうれしく感じました。1年生は、大きなランドセルに、ゆめいっぱいつめこんで学校に通うのでしょうか。一人ひとりのわくわくドキドキを受け止め、自分がなりたいと思う姿に近づいていけるよう支援していきます。

私が、以前から何かで見つけた言葉や気にとめたことをメモしてきた小さなノートにこんな言葉があります。

『人がいるから、そこに関係が生まれる。／心があるから、そこに悩みが生まれる。そして悩みがあるから、人は優しくなれる。』

「仲間といることが楽しいと思える」「仲間のよいところを認めることができる」「仲間の話を聞ける優しさがある」「仲間の寂しさに気付くことができる」「仲間へ感謝する温かさがある」「仲間と力を合わせるすばらしさを感じ取れる」...など仲間と関わる社会を広げてほしいと思います。そして、自分と異なるよさをもった仲間を認め、生活の中でさりげなくも温かい関係を築くことができる子どもに育ててほしいと願っています。

原小学校では今年度も、学校教育目標「心ゆたかに、ともに学ぶ子」を掲げ、「みんなは一人のために、一人はみんなのために」を心にとめながら、子どもたちの健全育成をめざして教育活動に取り組んでまいります。目標に向けて、次のことを大切にしたいと考えています。

◆「一人ひとりが大切にされる学校」

子どもたちは様々な個性をもっています。互いに認め合い、力を合わせていこうとする気持ちを育てながら自尊感情を高めていくためには、一人ひとりにしっかりと向き合い、子どもの思いや願いに寄り添い、その時々合った支援や指導を進めていくことが大切であると考えます。子どもたちのよさを伸ばし、学校に来るのが楽しい！と思えるような学校づくりを進めていきます。

◆「チーム原」

学校は、一人ひとりの子どもを様々な教職員で見守り、育てていきます。子どもと担任という関係だけでなく全教職員で共通理解を図りながら、成長を支援していきます。毎日の学校生活では、楽しいことばかりではなく、時には心配なこともあるかもしれません。そのような時にも、担任はもちろん、学年主任や養護教諭、児童支援専任や学校カウンセラーなど他の教職員にもご相談いただけたらと思います。

子どもたちの輝く笑顔のために「全児童を全教職員で育む」という姿勢で「チーム原」、教職員一同一丸となって取り組みます。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度も変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願いたします。



1000人で、平成28年度がスタートしました!

学びを広げる・拓く

校長 桃井 陽子

この詩は、6年生の国語の教科書「創造」のとびらの詩です。折り目のついていない新しい教科書をわくわくしながら表紙をめくると、子どもはこのとびらの詩と出会います。

このとびらの詩が大好きです。子どもたちがみずみずしい感性や柔らかな感覚を働かせ、これから出会う様々なものを自分の中に取り込み咀嚼して、自分のものとして次から次へと生み出していく。そんな子どもたちの学びの営みへの期待がこの詩から感じられるのです。

新しい学年になって、約一ヶ月。班長さんを先頭に一列になって登校する子どもたちから気持ちのよい「おはようございます。」がとびかいます。「失礼します。〇年〇組の…」で始まる、職員室に鍵を借りに来る子どもの挨拶の声が聞こえてきます。その会話から、一つ上がった今の学年が板についてきたことがわかり、心の中でにんまりしています。朝休みの縄跳び、委員会活動。子どもたちの声、瞳の輝き、表情から子どもたちの新しい思いを感じ、わくわくしてきます。学校は学びのチャンスにあふれています。

校内を回った時の様子です。朝読書の時間、誰もいないかと思うような6年生の教室では、子どもも教師も自分が選んだ本に没頭して読む姿がありました。4年生の廊下には、「白いぼうし」の学習を深めるために、あまんきみこさんの童話集や「春のお客さん」「山ねこおことわり」「星のタクシー」などシリーズ本が可動式の書架に並べられていました。きれいな歌声にひかれて第二音楽室に行くと、3年生が「友だち」という曲を「友だちと声を合わせて歌おう」というめあてで互いに聴き合っていました。7組では歴史上の人物に興味をもちノートにまとめていたり、計算問題に取り組んでいたり、それぞれ個別の課題に取り組んでいました。1年生は、白い花と赤い花の数を算数ブロックに置き換えて、比べていました。「校長先生、こういうふうにくっつけて比べるとわかりやすいよ。」2列になったブロックを1対1対応しながら、私に説明してくれました。5年生は、自分が言われてうれしい言葉といやな言葉を出し合い、相手の立場になってどんな言葉がいいか、どんな言葉を大切にしたいか考えていました。ぜひ言葉について自分の考えをもち、実生活に生かしてほしいと思いました。2年生は二位数+二位数の筆算を学習していました。教室の後ろには、子どもたちの「すきなことなあに」ののびのびとした図工の作品が掲示され、「これが好きなの!」と作品から子どもたちの声が聞こえてくるようでした。

どの学年も、子どもの知的好奇心や興味関心を大切に学習を展開しています。とびらの詩にもあるように、学校生活の中で、いろいろなことをきっかけにして、子どもたちが学びを自ら生み出していく。原小では、このような学びを保障し、子どもが学ぶ姿を大切にしていきたいと思えます。子どもたちが仲間とともに、たくさんの体験をすることで「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図り「生きる力」を育む学校生活になるよう、教職員一同がんばります。

このたびの「平成28年熊本地震」におきまして、甚大な被害が出ております。東日本大震災の時もそうでしたが、ふだん何気なく見たり聞いたりしていることや、あたりまえのように感じたり触れたりすることができることをありがたいと思えます。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方やそのご家族に心よりお悔やみ申し上げます。被災地域の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。